

短報 Short Report

東広島エコミュージアム見学ツアーに対する大学生の需要
— 2020年調査と2021年調査の比較 —

浅野敏久¹

University students' demand for Higashihiroshima eco-museum excursion
— comparison of the 2020 survey and the 2021 survey —

Toshihisa ASANO¹

要旨：広島大学総合博物館は東広島エコミュージアムの見学ツアーを紹介する動画を製作した。2020年度と2021年度に、大学生に、この動画を講義時に視聴してもらい、ツアーに対する意見を求めた。集めた意見についてテキスト分析を行い、次を明らかにした。対象とした大学生は、東広島市の周辺地域を訪れることを高く評価する。しかし、交通手段などがネックになるために提供する見学会では参加費が高くなり、ほぼ半数の者が参加を希望しない。一方で、参加を希望する場合は、提供される見学ツアーを貴重な機会だと評価し、実費レベルの参加費は妥当であり、むしろ安いと判断する。周辺地域への見学の機会をつくることは、短期間であれ自分が住む地域について知りたいという学生のニーズに応えることになるが、その実施方法について、特に費用面での工夫が必要である。
キーワード：エコミュージアム、見学ツアー、大学生、需要、東広島市

Abstract: The Hiroshima University Museum created a video introducing excursions at the Higashihiroshima eco-museum. In the 2020 and 2021 lectures on human geography, the students who watched this video were asked for their opinions on these excursions. A text analysis of the answers revealed that the targeted students highly appreciated visiting the rural area of Higashihiroshima city. However, due to the high participation fee owing to the transportation restrictions, almost half of the students do not want to participate. On the other hand, students willing to participate evaluate excursions as a valuable opportunity and judge that the participation fee set is reasonable and rather cheap. Creating opportunities for the excursions of rural areas will satisfy the students who want to know about their residential area, even if for a short period of time, however, it is necessary to devise a method of implementation, especially in terms of cost.

Keywords: Eco-museum, Excursion, University student, Demand, Higashihiroshima city

I. はじめに

広島大学総合博物館では、東広島市をフィールドとして地域をまるごと博物館とみなすエコミュージアム活動を進めている。その活動の一環として、2019年度からエコミュージアムを見学するツアーを立案し、実施しようとしてきた¹⁾。2019年度は地域遺産調査や関係者への聞き取り調査、モニターツアーの実施、東広島エコミュージアムを紹介する動画の作成などを行った。動画は、調査結果をふまえて周辺地域の特徴をうまく活かせると判断したルートとテーマを5つ設定し、モニターツアーの情報や映像を取り入れて製作された。約15分（ツアー関連の部分は10分ほど）

のイメージ映像である。この動画は博物館のウェブサイトから視聴できる²⁾。2020年度から実際の活動を始めようとしていたものの、2019年度末からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、野外での見学会は実施できなくなってしまった。2020年度は年度初めから野外活動を行えなかったため企画を検討するまでもなく推移してしまい、2021年度になって大学生の実習として見学会を企画・実施するところから再開するに至っている。いまだ一般の参加者を募集できる状況ではない。

広島大学総合博物館では、ホームページの刷新や、動画を製作して発信するなど、デジタル博物館機能を

¹ 広島大学総合博物館：Hiroshima University Museum

強化することでコロナ禍に対応しようとしてきた。2019年度に製作した東広島エコミュージアムを紹介する動画に続き、3、4分程度の短い動画を2020年度以降に作っている。ここでは、総合博物館、キャンパスまるごと博物館、地域まるごと博物館の3つのカテゴリーに分けて、それに見合った動画³⁾を整えつつある。これらの動画は、教養科目や学芸員養成プログラム科目などの講義においても利用している⁴⁾。特に先行して作った、前述の東広島エコミュージアム（及び見学ツアー）を紹介する動画については、教養科目の「人文地理学」で全学部の学生を対象に、農村地域の地域づくりや「農村空間の商品化」について学ぶという文脈で紹介している。なお、ここで紹介しているルートは、タイトルをあげておくと、水に注目して酒造りや米作りを学ぶツアー、動物と農村生活との関係を学ぶツアー、バイオマス産業都市で再生可能エネルギーを学ぶツアー、菖蒲前伝説を追いながら地域の歴史を学ぶツアー、小宇宙・三津湾エコミュージアムで海と山と暮らしの関わりを学ぶツアーの5つである。コロナ禍のためオンライン授業を余儀なくされており、動画を作成していたことで、当該講義時のテーマである「農村空間の商品化」の具体的なイメージを視覚的に伝えることができた。

この動画の視聴に際して、採点対象ではなく（成績とは全く関係なく）、学生によるツアーの評価に関する情報がほしいので協力してほしいと依頼し、受講生の意見を集めた。浅野ほか（2020）でその一部を報告した。今回は、2020年度と2021年度の2年度分の調査結果を報告するものである。2年度続けてデータを収集した理由は、2020年度はコロナ禍による登校規制・オンライン授業を始めた最初であり、特に前期は学生がオンライン授業に慣れていないため、後期以降と比べると受講態度がかなり熱心であったといえ、普段の反応と違う可能性があったほか、自由に外に出られないことへのストレスも強かったため、本調査のような野外見学会の評価に影響が出るかもしれないと考えたので、オンライン授業に慣れた2年目のデータを重ねて収集し、両者を合わせて分析することとしたからである。

あらためて記しておく、本報告の目的は、動画の中で紹介している市周辺部（農山漁村）への5つの見学ツアー（広島大学総合博物館、2020；浅野ほか、2020）に参加したいと思うかについての学生の意見を収集し、その特徴を計量的なテキスト分析により明らかにするとともに、今後のエコミュージアム見学ツアーを行う際の課題・改善点を示すことである。

II. 調査方法

調査は、教養科目「人文地理学」受講生を対象として、オンラインによる課題提出の形で回答を回収した。初回からの講義の中で、東広島市という地域について、その特徴を説明しているほか、農村を扱う講義時には「農村空間の商品化」の議論を紹介し、その一環として農山村でのエコミュージアムについて解説している。それらを受講した上で、総合博物館の東広島エコミュージアム（及び見学ツアー）の動画を視聴してもらい、ツアーへの参加意向とその理由について自由に意見を書いてもらった。この質問については、採点対象ではなく成績とは一切関係ないことをしっかり説明⁵⁾した上で、今後のエコミュージアム活動の参考にするので協力してほしいと回答を依頼した。出題・提出の都合上、回答は記名式となっている。回答を自由記述で求めたのは、本調査では参加するか否かの意向調査ではなく、ツアーの内容評価や、参加したいとする理由、しない理由、参加費をどう評価するかなど、動画を視聴した感想を出してもらい、その発言を計量的にテキスト分析することを狙ったからである。

講義の受講者は、主に1、2年生である。指定された時間帯での教養科目なので全学部の学生が自由選択科目として受講している。受講者数は、2020年度が194人、2021年度が306人であった（表1）。回答者数は2020年度が187人、2021年度が292人であった⁶⁾。

質問文は、「講義時に紹介した東広島市内でのツアーについて、参加費が5,000円（バス代・食費・体験代含む）⁷⁾だったとして、あなたは参加したいと思いますか。理由とともに回答してください」とした。

回答数や回答の総文字数などは表1に示したとおりである。この文字データについては、テキスト分析ソフトとして、広く利用されているKH Coder（樋口、

表1 調査対象者および分析対象語数等

	2020年調査	2021年調査
受講者数（人）	194	306
回答者数（人）	187	292
総文字数（文字）	23,746	31,447
総抽出語数（語）	14,333	19,127
うち使用した語数（語）	5,822	7,607
異なり語数（語）	1,439	1,514
うち使用した語数（語）	1,138	1,204
対象とした文の数（文）	560	811
対象とした段落数（段落）	187	292

回答を1件ごとに1段落になるようにしたので段落数は回答者数となる。

2020) を使用し、頻出語を抽出したほか、語の表記の揺れ(漢字表記とカナ表記など)をそろえたり、表現の意図としてほぼ同じ意味と判断できる語を1つのコードにまとめたりする作業(コーディング)を加えたコード⁸⁾を対象として頻出コードを抽出した。また、回答者⁹⁾がともに使っている頻度の高いコードをコード間の距離が近いととらえて処理するクラスター分析を行い、結びつきの強い語群(コード群)をまとめた。最後に、ツアーに参加するかしないかの回答でよく使われる語がどのようなものであるかの関連語検索を行い、それを共起ネットワーク図として表現した¹⁰⁾。

Ⅲ. 頻出語および頻出コード

回答に書かれた頻出語について、2020年と2021年のそれぞれ上位30位までを表2に示した。2回の結果にあまり差はみられず、特に上位頻出語はほぼ同じである。質問で、ツアーへの参加意思を尋ねているの

で、「ツアー」「参加」「思う」が両回とも上位語3位までを占め、「参加」と「思う」の出現数は群を抜いて多かった。「五千元」を高いか安いかの判断が分かれ、「高い」が「安い」よりやや多い結果となった。ただし、それぞれについて「(高く参加するのが)難しい」とか「妥当」「リーズナブル」など、別の表現もなされているので、コーディングしてみないと肯定と否定の程度は判断しにくい。また、東広島の自然や地域について見たり、知ったりすること、体験・経験する機会を持つことに魅力を感じていることに結びつく語が上位に出現する。

頻出語を「語」に限定すると、表現が違うためにカウントされていないけれども、文意はほぼ同じというケースがはじかれてしまう。そこで前述(注8)のとおり、分析対象とする語をコーディングして整理した。そのコードを対象として、頻出語(コード)について、上位30位までを表3に示した。先の頻出語の

表2 2020年と2021年の調査における頻出語(上位30位)

2020			2021		
順位	抽出語	文書数(段落)	順位	抽出語	文書数(段落)
1	参加	176	1	参加	261
2	思う	157	2	思う	242
3	ツアー	91	3	ツアー	122
4	体験	88	4	体験	120
5	五千元	57	5	五千元	100
6	興味	47	6	自分	84
7	東広島	46	7	東広島	76
8	知る	45	8	知る	75
9	自分	43	9	興味	67
10	行く	34	9	自然	67
11	感じる	33	11	行く	58
11	内容	33	12	感じる	50
13	機会	31	13	地域	45
13	見る	31	14	住む	41
13	自然	31	15	見る	40
16	理由	30	16	機会	38
17	地域	29	16	魅力	38
17	魅力	29	18	内容	34
19	オオサンショウウオ	27	19	オオサンショウウオ	33
19	高い	27	20	考える	30
21	多い	23	21	高い	29
22	考える	22	21	理由	29
22	持つ	22	23	学ぶ	28
24	住む	21	24	個人	27
25	経験	20	25	生活	24
25	農業	20	26	場所	23
26	好き	19	27	安い	22
27	牡蠣	18	27	学生	22
27	大学	18	27	多い	22
30	安い	17	30	経験	21
30	楽しい	17	30	面白い	21

- 1) 頻出語を抽出するに当たり、すべての語を対象にしたわけではなく、名詞、サ変名詞、形容動詞、地名、動詞、形容詞、その他(五千元、オオサンショウウオ、牡蠣)を対象にした。
- 2) 文書数(段落)は該当する語が使われている段落数のことであり、ここでは回答者数と同じになっている。
- 3) 抽出語につけている網掛けは本文の記述に合わせてあるだけで、分析の結果分類されたものではない。

表3 2020年と2021年の調査における頻出語(コード)(上位30位)

2020			2021		
順位	抽出語	文書数(段落)	順位	抽出語	文書数(段落)
1	したい	184	1	したい	277
2	参加	176	2	参加	261
3	思う	161	3	思う	254
4	しない	138	4	しない	210
5	体験	97	5	体験	132
6	ツアー	94	6	ツアー	128
6	できる	94	7	できる	125
8	見る・聞く	86	8	東広島	124
9	東広島	70	9	見る・聞く	122
10	知る・学ぶ	58	10	知る・学ぶ	104
11	五千元	57	11	五千元	100
12	興味	50	12	自分	86
12	行く	50	13	行く	83
14	自分	48	14	自然・環境	82
15	楽しい	45	15	興味	69
16	生き物	43	16	良い	52
16	良い	43	17	生き物	51
18	自然・環境	39	18	感じる	50
19	手ごろ・安い	36	19	楽しい	49
20	高い・難しい	35	20	地域	45
21	内容	33	21	参加費	44
21	感じる	33	22	日常	43
23	機会	31	23	高い・難しい	42
23	理由	31	24	住む	41
23	オオサンショウウオ	31	25	手ごろ・安い	40
26	地域	29	26	機会	38
26	魅力	29	26	魅力	38
28	カキ	28	28	大学生	37
28	参加費	28	29	内容	34
30	日常	26	29	場所	34
30	持つ	26	29	オオサンショウウオ	34
30	多い	26			

- 1) コーディングした語の詳細は本文の注を参照。
- 2) コーディングの対象にしたのは使用可能な抽出語全部なので表2で対象にしたものよりも多い。
- 3) コードにつけている網掛けは本文の記述に合わせてあるだけで、分析の結果分類されたものではない。
- 4) コーディングにあたり同一の語を異なるコードに含めることがある。例えばオオサンショウウオは「オオサンショウウオ」にも「生き物」にも含まれる。

場合は、分析の都合で対象とした品詞を限定したが、コードの場合は分類不能なものを除いた全品詞を対象にしている。基本的には、頻出語と同じ傾向が認められる。頻出語で対象にしなかった語や同じことなのに使い分けられていた語をまとめたので、上記の傾向がよりはっきりみえる。ただし、コードで集計すると参加費について「手ごろ・安い」と「高い・難しい」は両年ともほぼ同じ数になっている。参加費についての評価は五分五分と判断するのが妥当である。「ツアー」に「参加」「したい」のか「しない」のかの評価は割れている。この「したい」「したくない」のコードは必ずしも「参加」に結びついているわけではないので、早計に判断できないが、「したい」の方がやや多い結果になっている。また、東広島という地域につい

て、「見る・聞く」「知る・学ぶ」ことを「体験」「できる」「機会」に「興味」があるとの記載が、参加費の評価と関わらず多い。地域についての情報としては、「自然・環境」や「生き物」、特に「オオサンショウウオ」への関心が示されている。

IV. クラスタ分析の結果からみる主に言及されること

KH Coder 2 では、コード間の結びつきの強さを Jaccard 係数¹¹⁾ で計算し、それを元にしたクラスタ分析を行うことができる。その結果は樹形図で示されるのだが、スペースの都合でここに載せるのは難しいので、各年で 10 のクラスタにまとめられたものについて、表 4 と表 5 に集約されたコードをまとめた。

表 4 階層的クラスタ分析により集約された語 (コード) : 2020 年調査

クラスタ	クラスタに含まれる語 (コード)
参加の意思	体験：できる／参加：したい：思う：しない／ツアー：見る・聞く
ツアーの評価ポイント	生き物：オオサンショウウオ／自然・環境：触れ合う：機会：多い／興味：持つ：今：住む／東広島：知る・学ぶ：来る／自分：理由／行く・良い：楽しい
費用	バス：交通・移動：食費／講義：紹介：子供：魅力：感じる：広島：市内
参加費の評価とカキの魅力	参加費：出る／五千円：手ごろ・安い／大学生：内容：高い・難しい／カキ：食べる：好き：新鮮
都市住民と博物館	都市：住民／博物館：研究：得る
農村の歴史や文化と大学	県外：有名／大学：場所／農村：行う：多様：歴史・文化
周辺観光とジビエ料理	周辺：観光：コロナ：入る／ジビエ：料理
新しい発見が少ない	新しい：発見：少ない
時間的余裕と地域住民との出会い	大人：深い・豊か：会う／出身：詳しい／時間：余裕
地域の生活、見学の同行者等	家族：友人：活動／勉強：利用／個人：地元：苦手：企画：貴重：価値：大変／交流：大切：産業・経済：日常／地域：生活：理解・知識

- 1) クラスタが 10 できた段階でまとめている。
- 2) 分析の対象にしたのは個々の抽出語ではなく、意味の近い語をグループにした語の集合体 (コード) である。左列のクラスタの特徴の記述は筆者の解釈による。
- 3) 語 (コード) と語 (コード) の区切りは「：」と「／」を使っている。「／」はクラスタの中の下位クラスタの区切りを表す。「・」は 1 つのコードを 2 つの語で説明しているときのつなぎとして使っており、語の区切りではない。

表 5 階層的クラスタ分析により集約された語 (コード) : 2021 年調査

クラスタ	クラスタに含まれる語 (コード)
参加の意志とツアーについての認識	参加：したい：思う：しない：ツアー：体験：できる／東広島：知る・学ぶ：自分：住む／見る・聞く：行く：場所
市北部地域のツアーの特徴	生き物：サンショウウオ／ジビエ：料理／価値：会う：利用：企画
市南部ツアーの特徴と来訪者	新鮮：詳しい／カキ：食べる／広島：多い：地元：来る
ツアーに参加する人など	家族：有名／大学：周辺／友人：紹介：大切
理解や知識、人々との交流	理解・知識：多様：交流／研究：講義：得る：大変
農業・農村など	農村：出身：農業：行う／大人：入る：個人：理由：勉強
都市住民の観光	コロナ：余裕／時間：新しい：観光：少ない：県外／都市：産業・経済：活動／今：子供：市内：深い・豊か：貴重：出る：住民：発見
費用など	食費：バス：交通・移動
参加費の評価	大学生：魅力：高い・難しい：感じる／内容：楽しい：参加費：五千円：手ごろ・安い
周辺地域の評価とエコミュージアム	自然・環境：興味：持つ：地域：歴史・文化：博物館／日常・生活：良い：機会：触れ合う：好き

1) 注記事項は表 4 と同じ。

2020年度と2021年度で、クラスターのまとまり方は変わるが、参加するかしないかの判断と、ツアーについての評価（ツアーの何に注目しているか）によってクラスターが作られている。評価するポイントとして、参加費用に加え、内容面では、自然や生き物との触れ合い、農村地域の生活や文化、住民との交流などが言及されており、具体的に興味を引いた事項としては、市北部のオオサンショウウオ、市南部のカキへの言及が多かった。また、参加する集団として、親子連れ向けのツアーだとする意見があり、また、自分が参加するとしたら、友人と一緒にならよいという意見も多かった。これについては、表からは必ずしも読み取れないが、クラスターになったものについて、元の回答の記述を確認することでこのような傾向を読み取った。

V. 参加「したい」か「しないか」と関連して使われる語

最後に、ツアーに参加するかしないかの回答でよく使われる語がどのようなものかについての関連語検索を行い、それを共起ネットワーク図として表現した（図1）。「したい」と「しない」の各コードについて、それを中心として、各コードに含まれている語と、全文書中の語（コードではない）の結びつきの強さを、Jaccard係数で計算し、その値が0.25以上のものを図の中に表現している。

2020年と2021年を比べると、2021年では「したい」・「しない」と関連する語の出現数が減っている。2021年のほうが対象とした抽出語数はだいぶ多いにも関わらず、「したい」・「しない」と関連する語は少なくなっている。2020年に比して2021年の関連する語数が減ることについて、その理由はよくわからないものの、1つの考えとして、先に触れたとおり、2020年度前期の学生の受講態度がオンライン授業導入の最初であり、その後と比べてかなり熱心であったことがあげられるかもしれない。2020年度の回答者が、記述をしっかり書き込んでいたことは表1の回答者数と、総文字数や異なり語数の関係からも読み取れる。2020年度の回答者数は2021年度の3分の2程度ながら、総文字数はそこまでの差はなく、異なり語数はほぼ同じ程度になっており、1人の回答者が多くの言葉で意見を書いていることがわかる。以下、それぞれの図を考察する。

まず、2020年の「したい」の図からは、東広島を知りたい、体験したいという語が、参加する動機として使われていることがわかる。その他に、「したい」

と関連する語としては、安芸津の牡蠣を食べることが確認できる。参加費について、バス代・食費を含むなら魅力的、楽しめるので値段は妥当と適正とする意見がある一方で、参加したいけれども、大学生には少し高いという意見もあった。

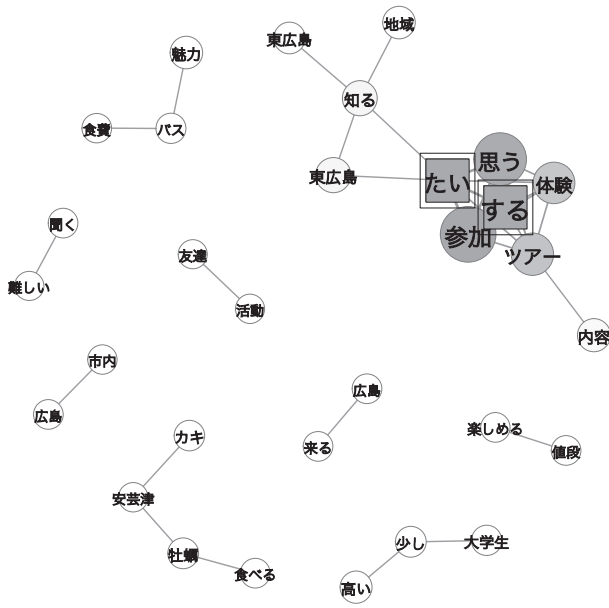
次に、2020年の「しない」の図からは、内容を考えると参加費が高いと考えていることがわかる。参加しないと答えているけれども、体験することに魅力も感じている回答者がある程度いることもわかる。また、ツアーの内容に興味がない（だから参加しない）と答える学生も存在する。参加しないと答える回答では、親子連れの企画だという評価や、時間的な余裕があれば考えるというような意見、安芸津の牡蠣には関心があるというような意見があった。

2021年の「したい」についてみると、2020年と同様に、参加したい人は、東広島を知りたい、体験したいと考える人たちである。関連して言及されていることとして、牡蠣を食べること、農村や生き物などに関わるエコミュージアムへの関心があり、もう少し安ければいいのという意見も2020年と同様に認められる。

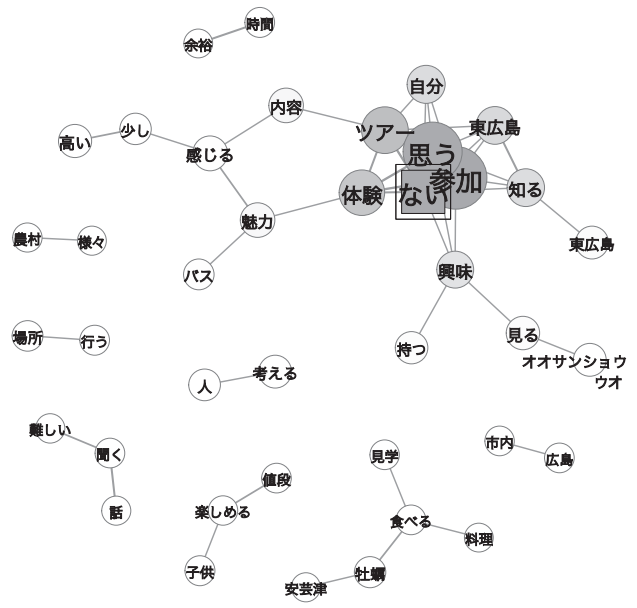
2021年の「しない」については、参加しないと答える場合に、五千円に設定された参加費を高いと判断する傾向が強まり、2020年の結果にみられたツアーの内容への言及やそれを評価する記述がなくなり、五千円は高い、だから行かないという記述に絞られてきているように見える。農村地域の生き物や地域の文化などへの言及もみられるが少ない。

VI. おわりに

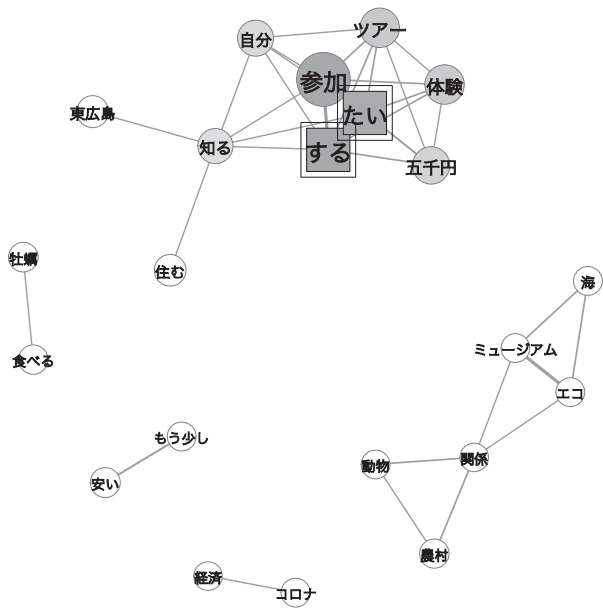
2020年度と2021年度の「人文地理学」受講生に対して、東広島エコミュージアムを紹介する動画に示されるツアーへの参加意向を尋ね、あわせて意見を求めた。本報告では、その回答についてテキスト分析を行い、回答の特徴を考察した。まず、回答してくれた大学生は、東広島市の周辺地域（農山漁村地域）を訪れることを高く評価する。しかし、公共交通手段が利用しにくいために、それらの地域は自家用車を利用しないと訪問することが難しい。特に、今回対象とした大学1、2年生や留学生など、大学の学生にとって、大学の所在する市内でありながら、行きにくい場所となっている。そこで、大学に進学して間もない学生らに地域のことを知ってもらう機会をつくることは、教育的な面でも、地域づくり的な意味でも有意義な試みになる。しかし、見学ツアーを企画すると、実費負担に留めたとしても数千円の参加費になることは避けら



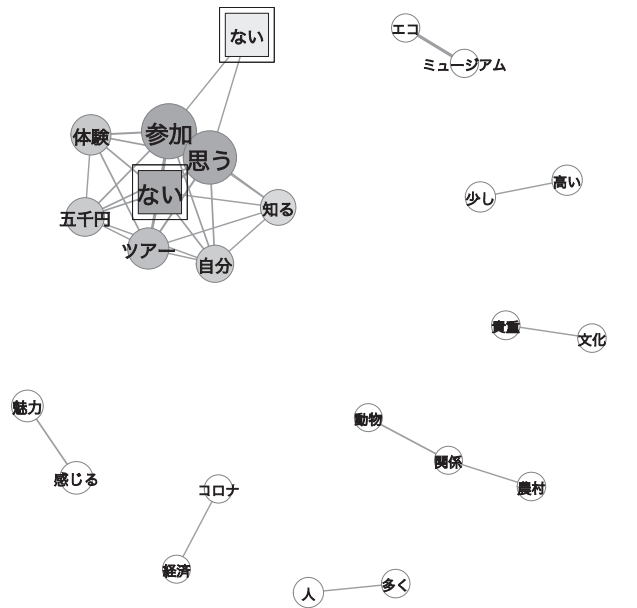
2020年調査：コード「したい」



2020年調査：コード「しない」



2021年調査：コード「したい」



2021年調査：コード「しない」

図1 参加「したい」と「しない」の語(コード)と関連の深い語についての共起ネットワーク
 1) Jaccard 係数 0.25 以上のつながりを描画してある。
 2) 円の大きさは語の出現頻度の多少を示す。四角は関連語検索の中心にした語である。

れず、参加費が高いと判断する学生が多く、ほぼ半数の者が参加を希望しない。一方で、参加を希望する場合は、提供される見学ツアーを貴重な機会だと評価し、実費レベルの参加費は妥当であり、むしろ安いと判断する。参加を希望する学生は、数年であれ自分が住む地域について、その自然に触れたり、住民と交流したりする機会は大変だと考えていて、ツアーが提供されることに魅力を感じている。あわせて自身が在住する市内なのに訪れる方法が限られることを知っており、ツアーが実費で提供されるのであれば、それはむしろ安いと評価する。地域まるごと博物館を標榜する大学博物館の営利ではない教育活動としての見学ツアーは、このような学生の声に応えるだけでも十分に実施する意義がある。しかし、参加費についての学生の高いか妥当かの評価が半々に分かれる状況は看過することはできない。実費で実施する公開講座的な見学会でもこのような評価だとすると、営利を含めた観光事業として周辺地域への見学ツアーを企画する場合は、参加費面でより厳しい評価が下される可能性が高い。周辺地域への見学の機会をつくることは、短期間であれ自分が住む地域について知りたい学生のニーズに応えることになるが、その実施方法について、特に費用面での工夫が必要である。

【注】

- 1) 広島大学総合博物館では、東広島市北部の豊栄町でのオオサンショウウオの調査・保護・普及の活動を行うなど、地域をエコミュージアムととらえる活動を行っていたが、エコミュージアムの活動をより積極的に行うべく、市中心部と周辺地域をつなぐエコミュージアム見学会を事業化することを考えていた。その同じ時期に、中心部と周辺地域の格差を埋めることを意識した東広島市役所から、市内の周遊観光ルートを開発するための共同研究を持ち掛けられた。そして2019年度に共同研究としての「エコミュージアム構想に基づく周遊観光ツアーに関する研究」と、同時に市が企画するモニターツアー調査へのアドバイザーとしての協力をするようになった。共同研究では、地域遺産に関する文献等調査と現地調査（18回）、聞き取り調査（30件）、住民自治協議会等への調査票調査（47団体）などを行い、成果として、東広島エコミュージアムを紹介する動画、地域遺産リスト、地域遺産マップを作成するとともに、5つのエコミュージアム・ツアーのコースを提案した。
- 2) エコミュージアムについての活動紹介ビデオ。 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/museum/ecomuseum.html> あるいは <https://www.youtube.com/watch?v=N3tOsFgZGR0>（ともに2021年8月28日閲覧）。
- 3) 総合博物館では、総合博物館の概説、本館展示案内など、キャンパスまるごと博物館では、埋蔵文化財調査部門の紹介、発見の小径（製作中）、キャンパスのサクラ、キャンパスをフィールドとした観察会、地域まるごと博物館では、カブトガニやオオサンショウウオ（製作中）の保護・普及活動や、里山保全と酒造業（製作中）、東広島エコミュージアムの紹介などのコンテンツを作っている。
- 4) 新入生向けの教養ゼミでは博物館見学を取り入れることが多く、コロナ前までは新入生の半分ほどに館内やキャンパス内の案内をしていたが、2020年度にはそれが中止になってしまった。その苦い経験を踏まえて、動画を使った博物館やキャンパスの紹介を機会があれば行うようになったほか、単独の科目、例えば、筆者が担当する教養科目の「人文地理学」や「環境問題と市民活動」、学芸員資格取得特定プログラムの「博物館資料保存論」（エコミュージアムを講義に盛り込むことが求められている）、専門科目の「エコミュージアム論演習」などで、実際に動画を視聴している。
- 5) この情報を東広島エコミュージアムの活動を進めるため、また見学ツアーの実施や改良に用いることを口頭及び文字情報として伝え、了解したうえで回答することを求め、記述内容を成績評価の対象としないことを断っている。
- 6) 回収率が極めて高いのは、次の事情によると考えている。この講義はオンラインの同時双方向授業と対面授業を併用するいわゆるハイブリッド型の講義として実施したが、講義を録画し受講生に公開しているためオンデマンド授業としても利用できる。動画への意見を提出する期限を1週間とし、授業の課題の提出と合わせて意見の提出を求めたため、回収率が高くなったと考えられる。
- 7) 参加費5,000円は、20人の参加者を集めるとして、バスの借り上げ代が70,000円、食費が1人1,000円、現地の協力者への謝金等10,000円としたときの費用を頭割りしたものであり、ほぼ実費（実際には赤字）になる料金設定である。
- 8) コードは以下のとおりである。*をつけたものがコードで、括弧内の語は、全回答を読んだ上で、ほぼ同じ意味をなすと判断し、1つのコードにまとめた語を示す。分析の都合上、複数の語をまとめていない1語だけのコードもある。なお、本文中ではコードに*をつけていない。*ツアー（ツアー、見学会、見学）、*興味（興味、関心）、*自分（自分、自身）、*地域（地域）*機会（機会）、*内容（内容）、*魅力（魅力）、*理由（理由、わけ、訳）、*農業（農業、農法）、*産業・経済（産業、経済）、*農村（農村、田舎）、*大学（大学、広島大学）、*博物館（博物館、ミュージアム、エコミュージアム）、*歴史・文化（歴史、文化）、*場所（場所、土地）、*地元（地元）、

*カキ (カキ, 牡蠣, 牡), *コロナ (コロナ, ウィルス, 感染), *子供 (子供, 子ども, こども), *大人 (大人, おとな), *大学生 (大学生, 学生), *住民 (住民, 住人), *バス (バス), *生き物 (生き物, 生物, 動物, 合鴨, アイガモ, オオサンショウウオ, オオサンショウオ, サンショウウオ), *参加費 (お金, 値段, 価格, 金額), *家族 (家族, 親子, 子連れ), *友人 (友人, 友だち, 友達, 知人), *個人 (個人), *自然・環境 (環境, 自然, 海, 山, 川, 河川, 水), *都市 (都市, 街), *県外 (県外), *市内 (市内), *周辺 (周辺), *出身 (出身), *余裕 (余裕), *参加 (参加), *体験 (体験, 経験, 実体験), *生活 (生活, 暮らし, 暮らし), *観光 (観光), *料理 (料理, 食事), *講義 (講義, 授業, 動画), *活動 (活動), *企画 (企画), *交流 (交流), *発見 (発見), *勉強 (勉強), *研究 (研究, 専門), *利用 (利用), *理解・知識 (理解, 知識), *好き (好き), *貴重 (貴重), *価値 (価値), *食費 (食費), *有名 (有名), *大変 (大変), *苦手 (苦手), *紹介 (紹介), *日常 (日常, 普段), *時間 (時間), *手ごろ・安い (手ごろ, リーズナブル, 妥当, 安い, やすい, 格安, プライズレス), *新鮮 (新鮮), *大切 (大切), *多様 (多様, さまざま, 様々), *今 (今), *東広島 (東広島, 西条, 黒瀬, 豊栄, 福富, 安芸津, 八本松, 高屋, 志和, 河内), *広島 (広島), *オオサンショウウオ (オオサンショウウオ, オオサンショウオ, サンショウウオ), *ジビエ (ジビエ), *酒 (酒, さけ), *交通・移動 (交通, 移動, バス, 自動車, 自家用車), *思う (思う, おもう, 考える, かんがえる, 思える), *知る・学ぶ (知る, しる, 学ぶ, まなぶ, 知れる, 学べる, 学び, 深める), *行く (行く, いく, 訪れる, 回る, 行ける), *行う (行う, おこなう), *持つ (持つ, もつ) *見る・聞く (見る, みる, 聞く, きく, 聞ける), *感じる (感じる, かんじる) *住む (住む, すむ), *会う (会う, あう), *触れ合う (触れ合う, ふれあう, 触れる, ふれる), *来る (来る, くる), *出る (出る, でる, 出す), *入る (入る, はいる), *得る (得る, える), *できる (できる, 出来る, 可能), *食

べる (食べる, たべる), *楽しい (楽しめる, 楽しい, 面白い, 興味深い), *深い・豊か (深い, ふかい, ゆたか, 豊か, 響く), *多い (多い, おおい, 多く, おおく), *高い・難しい (高い, 高額, 高価, きびしい, 厳しい, 難しい, むずかしい), *良い (良い, よい, いい), *詳しい (詳しい, くわしい), *新しい (新しい, あたらしい), *少ない (少ない, すくない), *したい (したい, する, ほしい, たい), *しない (しない, したくない, ない), *五千円 (五千円: なお, 数字の5000円をソフトがうまく認識しなかったので元データの5000円等の表記をすべて五千円に置換した)。

- 9) KH Coder 2 での分析上は文書数 (段落) と表記される。本調査では回答者の回答を1つの段落になるように整理したので, 分析対象とした段落数と回答者数が同じになっている。
- 10) 共起ネットワーク図は, 回答間の共通性 (単語の出現頻度と複数の単語が同時に使われる頻度) を単語間の関連具合を線で結び図に示したものである。
- 11) ある語 A とある語 B のいずれか, または両方が出てくる段落のうち, 語 A と語 B の両方を含む段落の数の割合を指す。割合が高いほど, 語 A と語 B が1つの段落中で同時に使われていることを示し, 結びつきが強いと判断する。

【文献】

浅野敏久・清水則雄・佐藤大規・菊地直樹 (2020): 東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの需要, 広島大学総合博物館研究報告, 12, 101-108.

樋口耕一 (2020): 『社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-第2版』ナカニシヤ出版.

広島大学総合博物館 (2020): 『エコミュージアム構想に基づく周遊観光ツアーに関する研究報告書』広島大学総合博物館.

(2021年8月31日受付)

(2021年12月8日受理)